

ADDRESS VOICE

No.4
2016.2.1

No.42
2016.2.1

【ぬくもりを待つ梅待月号】

〒921-8147 金沢市大額 1-342-3 《TEL》 076-298-8585 《URL》 <http://www.adrs.co.jp> 《Email》 office@adrs.co.jp

編集・発行人 清水

制作一筆箋 第1回

ドラえもんとからあげくん

制作部・清水

ある日、私は「からあげくん」を「からあげクン」に直すお仕事に没頭していました。

「からあげクン」はご存じ某ローソンの商品名ですが、テープおこしで気を付けていることの一つが固有名詞の表記です。アドレスのデータは1次入力、チェッカー、アンカーという3工程でできていて、私はチェッカーで「違うんだな、からあげ『クン』なんだな」と思いながら置換を繰り返していたわけです。他に表記の王道といえば「ドラえもん」でしょうか。「ドラエモン」でも「ドラエもん」でも、藤子・F・不二雄氏の意を汲むことができません。こちらは知名度が高く、1次入力での間違いも少ないのですが、王道だけに気を遣います。どんな固有名詞が来ても、ひらがな・カタカナ・点の一つまで正確に再現したいとあらためて思わせてくれた「からあげクン」でした。

Bill's tweet #1

A Mixed Bag of Traditions

制作部・スミス



Valentine's Day is the most romantic holiday of the year of with millions of men giving chocolate, flowers, gifts, and extravagant dinners to their lovely ladies. It is indeed a serious spending holiday, with per-person spending in the United States topping \$131 (¥15,000) in 2013. Children in the United States also exchange simple cards called 'Valentines' not only to someone they like, but sometimes to all of their classmates in their homeroom.

The tradition of giving chocolates began in Japan in 1936 with an advertising campaign initiated by Kobe's Morozoff Limited. Interestingly enough, the tradition in Japan of women giving chocolate or gifts to men may have originated from a translation error of a chocolate company executive during the initial advertising campaigns. To avoid creating nationwide traditions based on faulty translations, rely on Address for all of your translation needs.



ふくふく通信

代表取締役 中山雅美

Puku Puku Greetings

テープおこしでは、正しく聞き取ることが何よりも優先されるミッションであり、すべてはそこから始まる。

創業時、社名の「ADDRESS」に込めたいいくつかの思いの一つに「気の利いた仕事をする、手際のいい仕事をする」ということがありました。顧客に少しばかりの驚きをお届け、顧客の満足につなげていけたらと思ったのです。

テープおこしは聞こえてきた言葉を最終的には削いでいく作業です。読みやすくするために、伝わりやすくするために、削いでいきます。

ただ、削いだ結果を、「手抜き」と受け止めるか、「気の利いた」と感ずるかの主体はお客様にしかなく、私たちはそのお沙汰を待つみの存在なのです。

その振り子がどちらにふれるかを決定する因子は、顧客との信頼関係でしょう。

だからこそ、正しく聞き取る。要約文の作成も、文章の整理も、生おこしも、まずは正しく聞くことの上に立ってこそ成り立つ仕事であるという前提で、耳を澄まし、前後を読み、また耳を澄まし、先まで聞いて、また読んでを繰り返し繰り返し繰り返す。

老若男女とりまざったアドレスの制作集団は、今日も「話し手は何を伝えたかったのだろう」を探りながらの作業を積み重ねる。



アドレスのミニッツライティング

ミニッツとは
制作者が現場に臨席の上、的確かつ簡潔にまとめた記録を、速報性を持ってご提供するサービスです。



創業以来ご提供してきたミニッツライティング。日英両言語対応が可能になって以降、即時性を求める時代の要請と相まって、ますますご依頼が増えています。

ミニッツチームの現場力は、種々の会議の臨席経験と、品質を追求するテープおこしの日々の作業によって育まれていきます。

1【入念な打ち合わせ】

現場ですべての作業を行うミニッツは、何と言っても事前の準備が肝。営業担当が、お客様のご要望をしっかり確認します。最も重要なのは《納品時刻》。閉会后、どれくらい時間が頂けるのかによって、制作者の人数や記録の分量が決まります。もちろん《最終用途》も大事な項目の一つ。会議資料であれば議論のポイントを箇条書きに、web掲載用の速報であれば読みやすい要約文など、用途によってまとめ方も変わります。忘れがちなのが《作業場所の確保》です。特に提出までの時間が短い場合には、会場内の別室など、移動時間がかからない場所で作業させていただけるようお願いしています。

2【最適なメンバー選定】

お客様との打ち合わせが終わったら、内容や納期を勘案して、最適なメンバーを選定します。医学分野等の高専門性分野では、その分野のテープおこしで経験を積んだスタッフを、国際会議では提出言語が日本語であっても英語の分かるスタッフを派遣するなど、必要な知識とスキルを持った制作者を選んでいきます。締め切りまでの時間が短い場合や分科会がある場合などは、2名以上のチームで臨むこともしばしば。プログラムを基に割り振りを考え、まとめ方の方針などもチームで決定し、作業者ごとのばらつきが生じないように気を配っています。

3【事前資料は生命線】

現場に派遣される制作者が何より必要としているのが、充実した事前資料です。事務局説明や発表用スライドを当日までにしっかりと読み込んで、予定されている話の概略を把握することはもちろん、キーワードや専門用語、固有名詞を頭に叩き込みます。時には、演者の別の講演録や著書から、予備知識を仕入れることもあります。内容を正確に理解し、素早くアウトプットするには、事前勉強が欠かせません。なるべく早く資料を入手することが、ミニッツの品質を大きく左右するといっても過言ではありません。

4【いざ、本番!】

ミニッツのデータは、すぐさま印刷されて次の会議資料として使われたり、さらに編集・加工して情報発信されたりすることがほとんど。私たちの作業が終わった後も、それを引き継いでくださる「誰か」が待っているのです。そのため、お約束した時刻には1分たりとも遅れるわけにはいきません。内容がいかにも難しくとも、まとめられませんでしたというわけにもいきません。最後の1文字を仕上げるまでは、頭は常にフル回転です。データをお客様にお渡しする瞬間は、まるでアンカーにバトンを渡すリレーランナーのような心境に。



【ミニッツの現場から】

制作部コーディネーター・大野 優子

マイクがONになり、司会者が話し始めるまでの数秒間、イヤホンからかすかに聞こえてくるジ——という音が、集中力のスイッチ。さあ、今日もあ——という間の一日が始まる。

今日の現場は、リレー通訳の入った国際会議です。固有名詞が出れば手元の資料に目線を落とし、「これ」「ここ」の指示語にはスクリーン上のポイントを追いかけて、目と指先をせわしく動かしながら、文章をつないでいきます。今日の私はなかなか冴えてしまったそのとき、ぎょっとして思わず手が止まりました。

イヤホンから突如、中国語が流れ出す。日英担当の私には、手も足も出ない。

恐らく通訳さんが切り替えスイッチを押し間違えたのでしょ

う。早く気付いて！と念を送りつつ、後の確認のために時刻をメモした瞬間、聞き慣れた日本語が何事もなかったかのように耳に流れ込んできました。欠落は数秒、事なきを得ました。

会議が終了するや否や、機材を抱えて小走りして作業場所へ。他の分科会担当のスタッフと共に、データの仕上げにかかります。無言の室内に響き渡るのは、カチャカチャと3人分のタイプ音。

「第2分科会終わりました！」「データ持ってきて！」「誰かこれ調べて！」「バラバラだった各人のデータをまとめ始めたのは、提出時刻の20分前。時間がない。でも、だからこそ、慎重に。最後の一文字まで、一つの誤字もないように。」

データを載せたメールの送信ボタンを押した瞬間、忘れていた疲労と大きな達成感が押し寄せました。お客様の「ありがとう」が聞きたくて、私たちは今日も現場に向かいます。